

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

6. 学術資源研究開発センター

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009840

6 学術資源研究開発センター

センターの設置目的

学術資源研究開発センターは、本館が所蔵する学術資源の学際的かつ国際的共同利用性を高度化することを目的として、2017年4月1日に設置された。

国立民族学博物館には、約34万点の標本資料や約7万点の映像・音響資料、約67万冊の書籍、本館の所蔵資料をはじめ、多様な研究資料や写真資料、研究成果に関連するデータベース、文化人類学者・民族学者が残したフィールドノートや調査資料からなる民族学研究アーカイブズ等がある。これらは人類の文化や活動に関わる文化資源であり、人類の過去、現在、そして未来を考えるための貴重な学術資源でもある。本館では、これらの学術資源に関する研究成果や情報を「フォーラム型情報ミュージアム」とよばれるデータベースや、特別展・企画展・巡回展など多様な媒体を利用して公開するなど、学術資源の共同利用性を学際的かつ国際的に高めるプロジェクトを実施している。本センターでは、これらの研究プロジェクトを支援するとともに、新たに立案し、推進する。

センターの研究事業

2020年度には、おもに3つの事業を展開した。

●フォーラム型情報ミュージアム構築プロジェクトの研究推進と支援

本館では、2016年度より人間文化研究機構の機関拠点型基幹研究プロジェクト「人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」を実施している。2020年度には、「アフリカ関連資料」や「中央・北アジア資料」など3件の開発型プロジェクトと「日本の時代玩具資料」や「ミクロネシア資料」など8件の強化型プロジェクトを実施した。

構築したデータベース間の検索機能を強化した統合検索システムの開発を継続実施するとともに、博物館学芸員の認定科目の教育に資するプログラムの試行を行った。

本センターでは、標本資料名の統一化・多言語化などについて研究をおこなった。またデータベースの構築や編集、発信などに関して各プロジェクトの推進を支援した。

●特別展・企画展・巡回展プロジェクトの研究推進と支援

本館では、学術資源やそれらに関連する研究成果を公開するために、特別展や企画展、巡回展を実施している。2020年度には、特別展「先住民の宝」、「復興を支える地域の文化——3.11から10年」や梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」、巡回展「驚異と怪異——モンスターたちは告げる」、共催展「佐々木高明の見た焼畑——五木村から世界へ」、「梅棹忠夫生誕100年記念 知的生産のフロンティア」、次年度に向けたワークショップなどの準備と開催を支援した。本センターでは、これらの展示をおこなうための研究を進めるとともに、実施するための支援をおこなった。

●学術資源の共同利用性の高度化に関する研究

2020年度には、いかにすれば本館の学術資源の学際的・国際的な共同利用化が進展し、大学教育や学術研究、知識の一般社会への普及、文化の担い手による文化の創成等に効果的に貢献できるかについて研究した。

「大学博物館等協議会」に参加し、情報共有、意見交換を行った。